回の川崎幹二さん(那珂川町

片縄北)は生前、思い出の糸

江戸時代初期の天和3年(1

(35人) の会長をしていた時、 川崎さんが町郷土史研究会

く思いだった。

683) から約10年間、筑前・

争う峻厳苛烈な非情さを中8

いし)を見つけた時、寸土を

車を回して話していた。3年

肥前両国の農民の間で脊振弁

迫って来るさまに思わず息を

すべて師」と貪欲に知識を吸

話に触発され、「自分以外は

生涯学習の講習で、講師の

収していった。

肥前に軍配挙がる

図といわれるものだ。

肥前藩にとっては愁眉を開

提出を求めた。これが元禄絵全国の諸藩に詳しい国絵図の

幕府はこの紛争に懲りて、

決着に図面を取り交わす

に立ち並び、凄味を持って

「二つの石が睨みあうよう

のんだ」。国境石(くにざかい

## 同窓会事務局に贈る 髙原さん自筆の漢詩

筑中2回常任幹事高原慶治

回顧 鎮中刻立八年每周年 川夕滿边陽山 凌光

同母温恩深入高陸寒進文修顕 绿学宫海暑 取武献正 亭記街記華気雨福破剛神視 久会道會酸象道中那健社人 2 新京新沒賃銀該列風繳励範磨銀開氣枝鄉映室 贈同冥前枝古徒式夜心鎮先英心鈴覧会川夕滿 近年福缓庭樹脚典勉視磨追知男夷鄉感边指山

髙原さん自筆の漢詩

|境石、

領地

争

(1

0

史刻

to

載せていた。さらに弁財天のいなかった。一方の肥前藩は

絵図に脊振弁財天岳を載せて

再建や修理の記録なども出て

中8回·川崎

さん、12年かけ発見

と漢詩を掲載いたします。 に自作の漢詩を添えた手紙を さん (94) から過日、 いただきました。手紙の一部 事務局

いろいろと御尽力ことと 存じます。 筑紫丘同窓会の発展に

のため、諸会合に欠席し ています。あしからず御 いますが、高齢で、難聴 許容ください。 小生、幹事をいたして

風景と学友をしのんでい たびに往昔の筑中の校舎 幹事会や総会の通知の が慌しく入って来られた。 直前、組担任の園田平助教官 なったばかり。2時限の授業

を拙作いたしました。会 報の余白でも掲載してい ただければ幸甚です。 筑中二回生 高原慶治 平成二十二年十月七日 その懐旧に同封の漢詩 動場に集合せよ」と指示され 立ち寄るので、帽子を持ち運

筑紫丘同窓会事務局殿 ことしばし。そのうち一機のの校章「尹」をつくり、待つ 全校生徒が運動場で人文字

## 筑中 に銀翼を振り、 昭和19年春、 去っ 忘れ得ぬ光景 た先輩



陽春の好季。凱風快晴の日 それはあった。 らに超低空での旋回を繰り返

その際、





塩原時代の筑中校舎

方に転戦する。別れに学校に 昭和19年、 筑中2年生に 「航空兵になった先輩が南

## えあった。 く振って、南の空へ消え去っ 応えたがそのうちに翼を大き れわれは夢中で帽子を振り、 と反射して印象的だった。わ た。それは崇高で感動的でさ の先輩。飛行眼鏡がきらきら を振る航空服に白いマフラー

戦闘機が爆音を轟かして飛来

銀翼の日の丸も鮮やかに旋回

しては急降下、急上昇を。さ

愛国心、喪失した戦前の麗し 罪、平和ボケの中で失われた い日本の価値観。国を思い若 終戦から65年。多発する犯

輩の霊に対して、申し訳ない い血潮を散らせていった諸先 かった。

を期していなかったが、幸い にも無事帰国できた。戦後は 山本實さん。山本さんは生還 志の幹事などもした。(大谷) などを、また筑中同期会・充 教職に就き住吉中学校の校長 この航空兵は中4回準卒の 高 1 安川 孝

受章した松本壽通さん

と思っている。

市から那珂川町を経て佐賀県 さらに博捜すると、その3 今度は福岡 らず徒労に終わった。 ついに国境石を発見

年後の元禄9年、

とし図面まで取り交わして収 府の手を借り、肥前方三分の など当時の那珂郡五ケ山村の神埼市に至る坂本峠、札木山 二、筑前方三分の一を改める 離れ村と、神埼郡小川内村と 争が起きていた。この時も幕 で、農民の間に激しい国境紛 て町郷土史研 郡絵図」を頼 れた「筑前国 究会では、江 戸期末に編ま 平成になっ 案内を頼んだ。 平成6年の暑 シャ」と繁みの中で鎌が引っ

国境石の存在を知る古老に道 このため佐賀県東脊振村で

石らしいものが出たぞ」の声ンチの石が出てきた。「国境を掻き分けると、高さが63セ メートルの間隔に修羅妄執の させた。さらに驚かされたの 掛かる音。慌てて周りの草木 込んでくる。そのうちに「ガ 林立する高木をまだらに差し を薙倒して進む。木漏れ日が 鎌や鉈を手に背丈ほどの草木 は、見つかった9基が4~5 にそれまでの汗みづくを忘れ

ろで五ケ山ダムが完成すると 鳴りのような歓声を上げた。 湖底に沈む運命にある。 まで続いていたという。とこ 神埼の古老の話では、明治末 国境石を見つけた喜びに、 両村の争いの熾烈な対立は 尾根伝いに並ぶ

なった。 これから先、三領境峠—九千 訳は、九千部山系の坂本峠か 郷土研究会との合同調査に 部山―権現山までは鳥栖市の ら七曲峠まで1・3キロと、 から9年間に及んだ。その内 らの国境石探しは、平成4年 (飛躍台) となって川崎さん これがスプリングボード

の3キロ区間では、 交互に立てていた。 この結果、坂本峠―七曲峠 定の間隔で筑前、 、藪の中に 肥前側に

り、これが機縁で子どもの虐 として長年小児医療にかかわ 小児科医からNPO代表 かったのに。小児科の臨床医 受賞なんて考えてもいな 松本さんに 医療功労章 院小児科部長を経て、45年早九大講師や北九州市立小倉病 する。開院の頃は一日約15良区西新で小児科医院を開設 0人が詰めかけた。以来40年 に及ぶが、松本さんは単なる

を受章。喜びを隠しきれな 月末、松本壽通さん (8) は られたのでしょう」。昨年1 に取り組んできたことが認め 厚生労働省などの医療功労章 待防止など、幼児の心の問題 児不安にあった。 きつめると、6割が母親の が話題となり、その原因を 介の町医では終わらない これに対して小児科医や 日々の診療で子どもの虐

旧制福高に進学、九州大医学 昭和23年筑中最後の18回生 援するNPOをつくり、そ 高めた。「体の不調を言葉 代表者になり、ステータス・ 護師、保健師などで母子を支



言いきる。

できない子どもの代弁者」と

会長をしていて、論文の発

松本さんは九州小児医会

の活躍だ。 など老いを知らない櫛風木

中 18

は、筑前側にだけ立てられい。また三領境峠―権現山 庄屋に命じて設置させたら まの石もあった。 しかった国境争いの体験か これは黒田藩が元禄期の

石も。 花崗岩が多く高さ60~70セ 国境石はこれで41基。石 には1・5メートル高さの 、幅50センチ前後だが、

の俤はない。川崎さんは幽 杉の大木が続き緑陰を求め 境を異にしても、 九千部山に至る尾根伝いの 宿したメモリーに変わりは も、ブナやシイ、アカガシ ハたちでにぎわい、<br />
国境紛 これで国境争いは終息し 国境争いをした坂本峠か なお胸懐

間とライバルを 勝利した斉藤投手 が「自分は良い仲 昨秋の早慶戦で

持っている」と話

していた。 生だね」などと言いながらも、 いたので、「どこまでも優等 友人と一緒にテレビを見て

特に同じ学年の仲間に助けら 出会いが多い仕事をしている。 れた思いが強い。 良さに少し感動を覚えた。 でこまで言い切れる歯切れの 社会に出て30年も経つと、 営業職ではないが、人との

打ち解けるのである。 らったように思う。在学中は 当局の調査もソフトにしても の前は、少し言いにくいが、 のこと、弁護士や税理士、こ 動向を新聞の人事異動欄など 話をしたことがなくても、必 す共通の友人がいて、すぐに 東京や大阪に行った仲間の 企業に勤める仲間はむろん

る娘さんが結婚式場を探して から相談を受けた。 するなよと思う時もある。 大いに励みになるし、無理を いるという、仲間である父親 で見かけると、その頑張りが 先だっても母校を同じくす

わがホテルでの挙式にはなら の春には二世代続けての同級 両親も同級生同士なのだ。こ なかったけれど、実は彼女の であることが分かった。結局、 お会いしたら、二人が同級生 大学を出て間もない二人に

生夫婦が誕生することになる。

清廉、慈眼豊頬な人だった。 日本史に興味を持った。 を教える理科マン。退職後、 の出身。中学や高校で理数系 前不帰の客に。 87歳。 の社会教育指導員を務めて 川崎さんは旧制久留米高工

財天岳の帰属をめぐって厳し 国境争いが起きていたこと

分使が乗り込み、元禄6年 を知り、興味を持つ。 藩の全面敗訴に終わる。藩の (1693) 裁定の末、黒田 この紛争では幕府の国境検 川崎さん。

昼なお暗い山中にある国境石と、 ありし日の

入れたが、そ

様相で両藩が2基ずつ対峙し

地に足を踏み りに何度も現